

単元名 版で広がるわたしの思い(絵)

配当時間 6時間

単元の目標 (1) 版を彫ったり刷ったりしながら、版表現の特徴を理解し、表し方を工夫して版に表すことができる。
 (2) 版の特徴を生かして、どのように作品に表すかを考えるとともに、友達や自分の作品から、自分の見方や感じ方を深めることができる。
 (3) 彫ったり刷ったりする版表現を楽しみ、主体的に版に表す活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

06080301_001

【準備等】 版木、刷り紙（一版多色木版の場合は主に黒の色画用紙）、版画用具一式、彫刻刀、水彩用具一式、トレーシングペーパー、カーボン紙、新聞紙

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 教科書の参考作品を見て課題をつかみ、作品の構想を練る。 ○表現方法を理解する。</p> <p>★自分の思いに合った版画をつくろう</p> <p>○スケッチをし、刷り方の構想を練る。</p> <p>2 スケッチを基に、下絵をかき、版木に写す。 ○下絵をかく。</p> <p>○カーボン紙を使って、版木に写す。</p> <p>3～5 下絵に沿って、版を彫り、刷る。 ○彫刻刀の種類と正しい彫り方を確認する。 ・刀の種類 ・刀の持ち方、支え方 ○安全に留意しながら彫りを進める。 ・彫るところと残すところ。 ・彫る順番 ○本刷りをする。 ・彫り進み木版の場合は、彫りと刷りを繰り返しながら色を重ねていく。</p> <p>6 印象に残ったことを話し合い、友達の作品を鑑賞する。 ○作品に対する思いや工夫したことを作品カードに記入し発表する。 ○友達の作品のよさをみんなで話し合う。 ・同じ版なのに色や向きを変えると印象が違って見えました。 ・模様のついた紙に印刷することで、自分の思いに近づけているところがいいと思います。</p>	<p>・教科書 5・6下 P.50, 51</p> <p>・教科書の参考作品を見せ、彫り進み木版の表現や刷ったものに色を足す表現について説明する。 ・これまでに学習した紙版画、木版画、一版多色版画などを振り返って、学習の見通しをもつ。 ・スケッチに色鉛筆で色を塗らせて、大まかな感じをとらえさせる。 ・刷り方については、版の色を変えたり、刷り重ねたりするなど、版画特有の何枚も刷れるよさに注目させるとよい。</p> <p>・下絵はスケッチを基に画面構成を考えさせるが、細くなりすぎないように注意する。 ・一番表現したいものが目立つように、周りの物との関わりをとらえさせる。 【評】スケッチをしながら、どのように版に表すかを考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・カーボン紙を使って写すときに、下絵を裏表逆にすると、完成した絵が下絵と同じ向きになることを知らせる。 ・木版画と紙版画を併用して表現する場合はここで、紙版画の準備もする。 ・彫刻刀は切れ味のよいものを準備させる。 ・それぞれの彫刻刀の特徴や使い方を再確認させ、安全にも留意させる。</p> <p>・ばれんの使い方を師範する。 ・彫り進み木版の場合は、児童が平行して活動できるように、インクやローラーなどを配置する。 ・刷り上がった作品に彩色する計画の児童は、十分に乾燥させた後で行わせる。 【評】彫りや刷りの効果を確認しながら、表わし方を工夫する活動を通して、「知識・技能」を評価する。 【評】版の特徴やよさを感じ取りながら表現を楽しむ活動の様子を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・作品カードを活用して、自分の作品への思いを伝えさせる。 【評】表現や意図、工夫やよさをとらえる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する</p> <p>【評】これまでの学習活動や作品を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【備 考】

図画工作科におけるプログラミング的思考の育成
 木版画では、どのような表し方をするのか、事前に完成のイメージをもたせる必要がある。イメージに対して、どのような表し方をするのか、どの順番で彫り、どの順番でどの色を刷るのかを考えさせ、彫りと刷りを重ねながら表現させる。

自分が意図する活動を実現するための①分解（表したい作品を，構成する要素に分解する），②置換（要素を形や色に置き換える），③組合せ（形や色の組合せや順番を考える），④検証（組合せを検証して意図に近づける）といったことを論理的に考えていく力を育成する。その他の題材においても，上記の事柄を意識しながら学習活動を工夫し，プログラミング的思考の育成に努めたい。

参考・・・日本文教出版株式会社<http://www.nichibun-g.co.jp/>